

★伊能忠敬と歩くプレミアムツアー★

北九州土木遺産めぐり

長崎街道 編



案内人：伊能 忠敬

わしも昔歩いた長崎街道の起点・常盤橋から
木屋瀬宿を中心に案内つかまつる！

当時の面影を残す遺構をたどりつつ沿道に展開
された文化と風土をしのぶことができるぞ！

Tadataka Inou

伊能 忠敬

(いのう ただたか)

1745(延享2)年生まれ、

1818(文政元)年没。

2021(令和3)年この地に蘇る…。



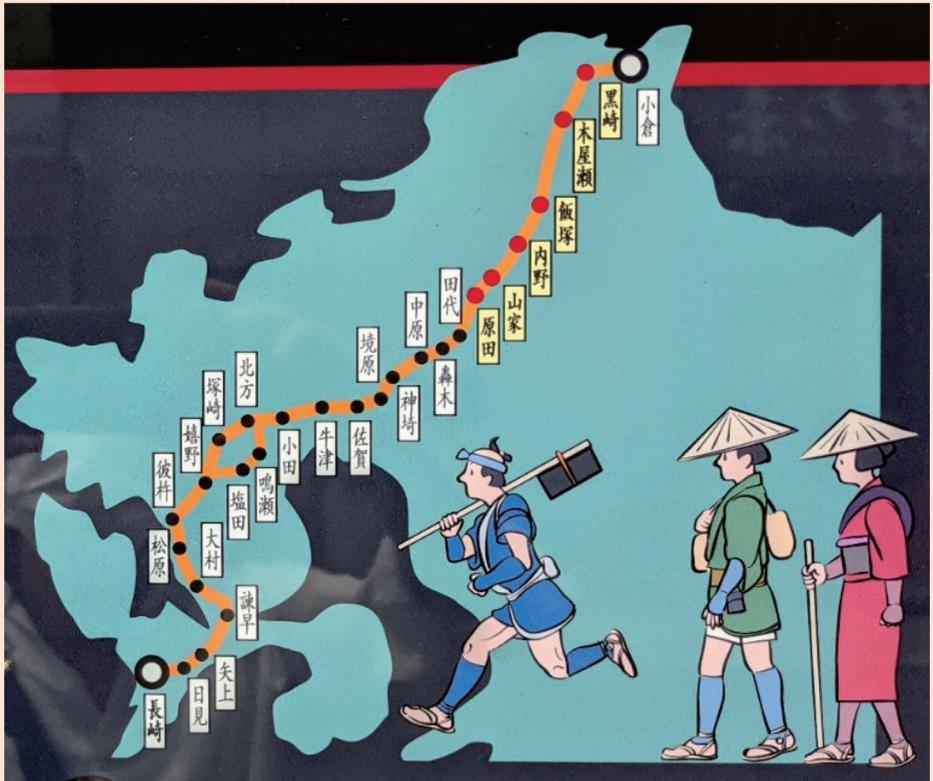
江戸時代の測量家伊能忠敬は、以後17年の長きにわたり日本全国の測量を行い、我国初めての实測による当時世界最高水準の日本地図を完成。この間の歩み4,000万歩、地球一周分の距離に及ぶ。九州においては、忠敬64歳の時から前後2回に及ぶ困難な測量作業を行い、5年以上をかけて測量した。

今回の案内では、わしが滞在した小倉城下から木屋瀬宿までの長崎街道をたどることで、当時の歴史・文化に触れることができるぞ！

全体エリア MAP



地図：国土地理院地図引用



長崎街道と筑前六宿

(イラスト：常盤橋近辺にある「長崎街道（室町界限）案内板」より)

江戸時代の日本には五街道と脇街道があり、長崎街道は九州で唯一の脇街道であり、約 228km のこの街道には 25 カ所の宿場があった。

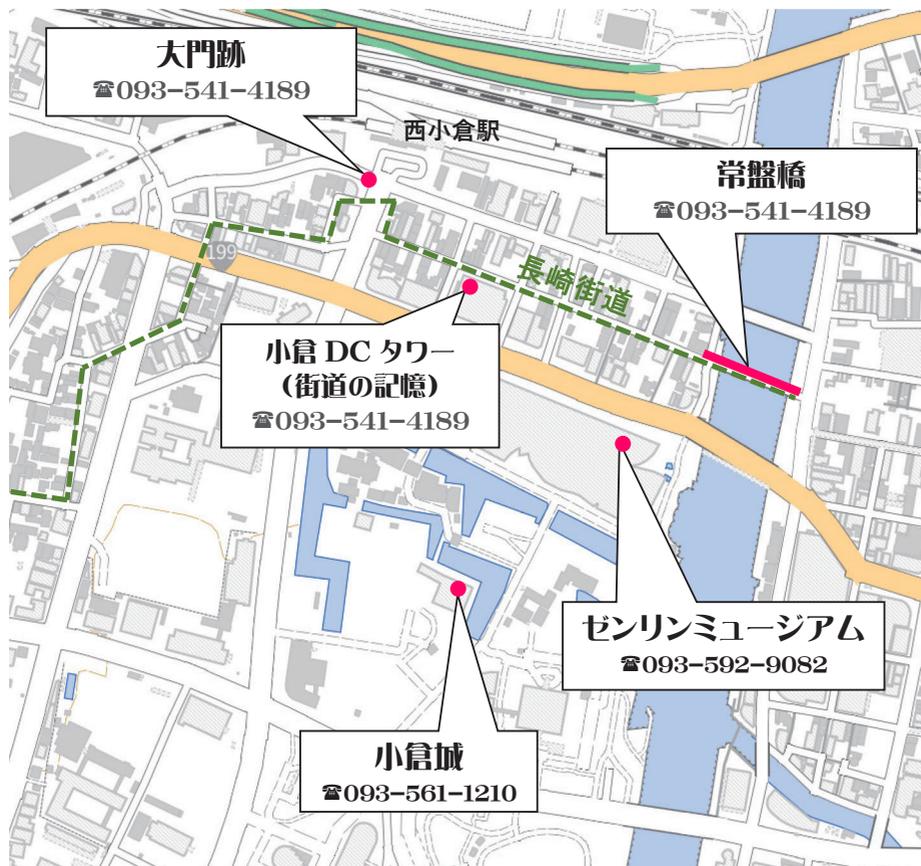
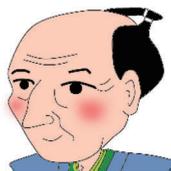
このうち福岡藩内の黒崎、木屋瀬、飯塚、内野、山家、原田の各宿は筑前六宿と呼ばれて大変な賑わいをみせていた。なお小倉宿は小倉藩内にあった。

当時、長崎街道は、鎖国体制の日本において、唯一外国との文化交流や通商の窓口であった長崎から西洋の文化や新しい技術などを日本に伝える文明の道として重要な役割を果たしていた。

参勤交代の大名や長崎奉行だけでなく、伊能忠敬、シーボルトのほか象や孔雀などの動物もこの街道を通った。

長崎街道 小倉エリア

小倉はわしも泊まった城下町じゃ。
とても賑わっておったの。
わしは常盤橋の高札場の下から長崎街道
を測ったんじゃよ。



地図：国土地理院地図引用

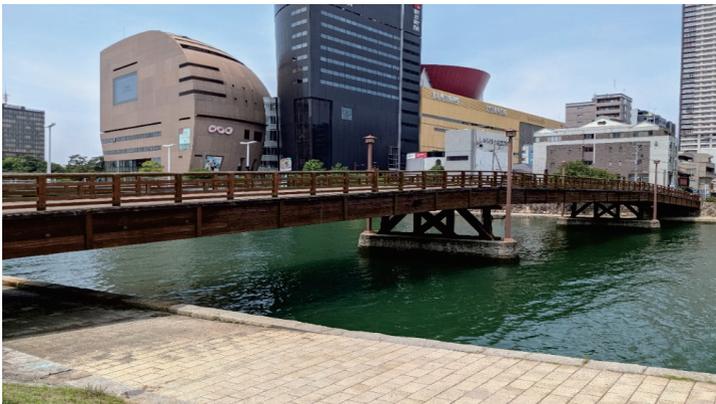
◇常盤橋

江戸時代後期に全国を計測した伊能忠敬は、1812（文化9）年1月から長崎街道を測量した。その始発点が室町界隈の常盤橋であり、当時、忠敬は常盤橋のそばにあった宿「大阪屋」を利用した。

当時、常盤橋は「九州の日本橋」であり、本州へ続く海と陸の玄関口として、九州の各街道（長崎街道、中津街道、秋月街道、唐津街道、門司往還）がこの橋につながっていた。



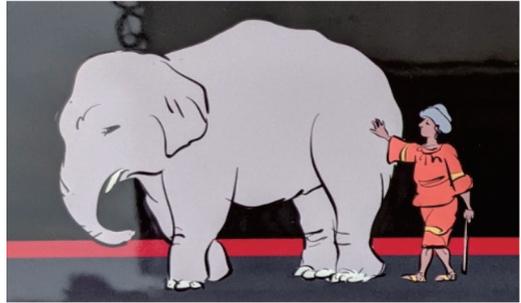
室町界隈のマップ（イラスト：「長崎街道（案内板）」より）



現在の常盤橋
（奥に見える黄色の建物よりリバーウォーク）

常盤橋周辺の京町・船頭町・室町には、九州の諸大名が参勤交代で泊まる宿（本陣）や商人・旅人が泊まる旅籠が多数あり賑わいを見せた。

当時、第8代將軍徳川吉宗に献上するためにベトナムからやってきた象もこの橋を渡った。



長崎街道を歩いた象のイメージ
(イラスト:「長崎街道(案内板)」より)



江戸時代後期の常盤橋を支えていた橋脚の一部

今も当時の橋脚の一部が橋西側のたもとに残されている。

現在の常盤橋は、1995（平成7）年、治水対策としてコンクリートと同じ強度を持つ加工木材を使用し、江戸時代の姿である「木の橋」を再現している。

また、橋東側のたもとには、明治時代に設置されたものを復元した広告塔や伊能忠敬の偉業を讃えた「測量200年記念碑」がある。



伊能忠敬 測量200年記念碑
2001（平成13）年建立

「小方儀」

(写真：記念碑の側面の石板より)
方位測定 of 器具であり、杖先羅針とも言われている。
傾斜地などで杖が傾いても、常に水平を保つようになっている。



「広告塔」

1890 (明治 23) 年頃この地に建てられ、森鷗外の小説「独身」において、西洋から直接小倉に伝わった「東京にないもの」のひとつとして挙げられている。

当時の小倉は、隣接する門司の西洋化に触発され、近代化への歩みを始めた頃であり、広告塔は 1945 (昭和 20) 年代後半まで、多くの人に利用され親しまれていた。

このモニュメントは、当時の約 3 分の 1 の大きさで復元されたものである。



小倉 D.C.タワーそばの 「明治の黒いポスト」

1871（明治4）年12月5日、長崎街道に呼応するように、九州で最初となる長崎郵便役所と16の郵便取扱所が街道沿いに設置され、その後準じ、九州全域に郵便局ネットワークが広がっていった。



タワー前の道路脇にある表示板

◇ゼンリンミュージアム

2020年6月、「ゼンリン地図の資料館」が「ゼンリンミュージアム」としてオープン。紀元前から現代までの地図、あわせて約120点が常設展示されています。館内床面にある「伊能中図（原寸）」は必見！です。



地図：国土地理院地図引用

- ・所在地：北九州市小倉北区室町1-1-1
リバーウォーク北九州14F
TEL：093-592-9082
- ・開館：10時～17時（最終入館16時30分）
- ・休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日に休館）
- ・入館料：1,000円（保護者同伴の小学生以下は無料）
- ・JR・モノレール 小倉駅より徒歩10分／JR西小倉駅より徒歩5分

※ゼンリンミュージアムHPより引用加工

◇大門跡

常盤橋が出発点の長崎街道の室町の通りを西に進むと、最初の門が大門である。

名は大門だが特に大きい門ではなく、海岸に近いこの地に海藻が大量に打ち上げられたため「大藻」と呼ばれ、それがなまって「大門」となった。

2005（平成17）年夏、地中1メートルから見つかった石塁の基礎は、高さ1.8メートル、幅3メートルであり、ガラス越しに保存された石塁の遺跡を伺うことができる。



大門跡の遺跡（左）と案内板（右）
（写真：北九州風景街道長崎街道サイトより）



石塁の遺跡
（写真：北九州風景街道長崎街道サイトより）



小倉城天守閣

◇小倉城

小倉城は、関ヶ原合戦の功勞で小倉に入国した小倉藩主・細川忠興^{ただおき}が1602（慶長7）年、約7年の歳月を経て築城した小倉のシンボルである。

城の特徴としては、「唐造り^{からづくり}」と呼ばれる建築様式の独特の天守閣があり、4階と5階の間に屋根のひさしがなく、5階が4階よりも大きく膨らんでいる。

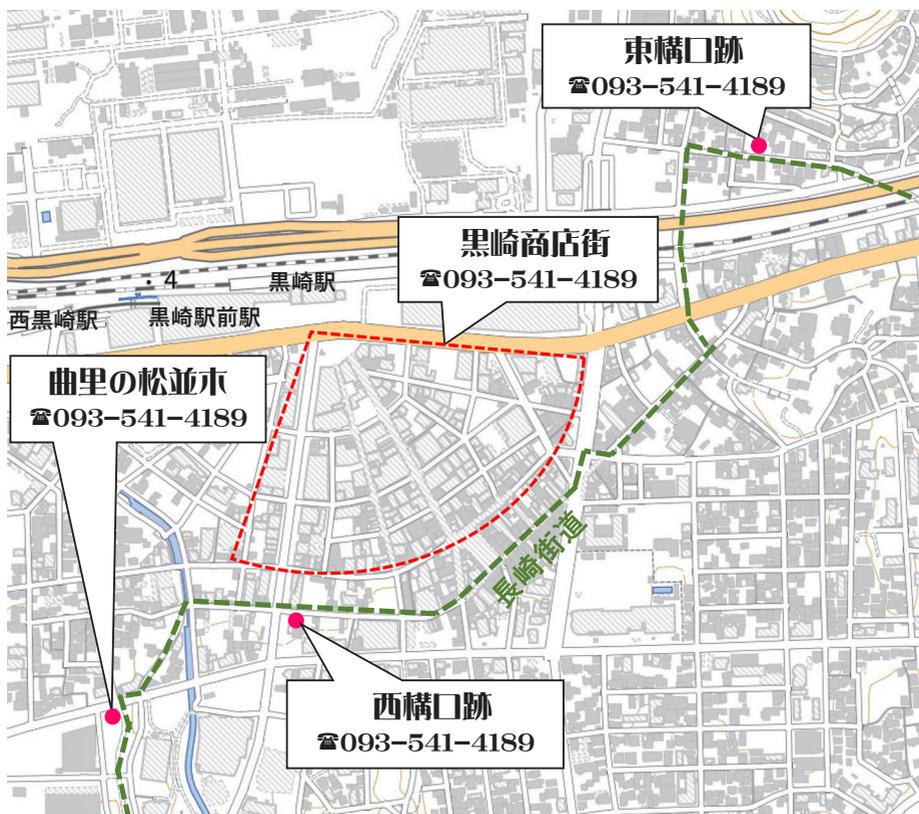
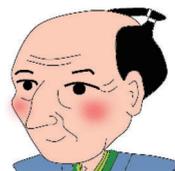
その石垣は、野面積み^{のづらづ}という切られていない自然のままの石を積んだ石垣であり偉容を誇っている。

また忠興は、城下町の建設にも手がけ、城の周囲に武家屋敷、その外側に町屋敷、寺院などを配置した他、城下町の外周には堀を巡らし、その内側に曲輪^{くるわ}という土塁や石垣を築いた。

こうして東西2km、南北1.3km、周囲8kmにも及ぶ日本有数の大きさとなる城下町となった。やがて細川家が熊本に移ったあとに、譜代大名の小笠原忠真が入国し、城下町はいっそう整備された。

長崎街道 黒崎エリア

かつて黒崎は、宿場町として、陸・海路の要所であり、九州西半の諸大名や多くの旅人が利用したのじゃ。当時の賑わいを示すように、町の随所に由緒ある寺社や趣漂う史跡を見ることができるぞ。



地図：国土地理院地図引用

◇東構口跡・西構口跡

1615(元和元)年、黒崎城を廃し、城の南側にあった堀を埋めて構口を開き、番所を設けて行旅の人を監視したのが始まりであり、黒崎の宿場を通過するためには、必ず東と西にある構口で検査を受けた。構口とは、宿場の出入り口のことであり、東の構口で4人、西の構口で3人の役人が昼夜交代で詰め、行旅の監視をしていた。これら東、西の構口の間が黒崎宿であった。



東構口跡

(写真：北九州市 HP より)



西構口跡

(写真：北九州市 HP より)

◇曲里の松並木

江戸時代に全国の街道に松や杉を植樹させた名残であり、昔日の長崎街道の面影が感じられる。

江戸後期の狂歌師大田南畝(おおたなんぼ)は「坂を下るに赤土の岸あり。松の並木の中をゆくゆく坂を上り下りて、又坂を下りゆけば、左に黒崎の内海見ゆ。」とその紀行文(小春紀行)に描写している。

また、各藩の大名が、参勤交代時の他、吉田松陰、シーボルトなども多く往来した。

現在は、市民のウォーキングやランニングのコースとなっており、市民の語らいの場としても親しまれている。



曲里の松並木

(北九州市より資料提供)

◇黒崎商店街

駅前には扇状に広がるのが黒崎商店街であり、複数の商店街や市場で構成され、生鮮食品や生活雑貨の他、飲食店など約 400 店が軒を連ねている。

1901 年の官営八幡製鐵所の操業を開始し以来発展してきた場所であり、創業 100 年以上の老舗和菓子店や創業 90 年以上の呉服店など、地元で長く愛されている専門店も多い。

柚子胡椒を添える名物グルメ「八幡ぎょうざ」店が点在し、食べ比べもおすすめ。

また、近くを走る北九州都市高速道路高架下には長崎街道の看板が掲げられており、珍しい景観を見ることができる。



黒崎商店街

(写真：北九州市観光情報サイトより)



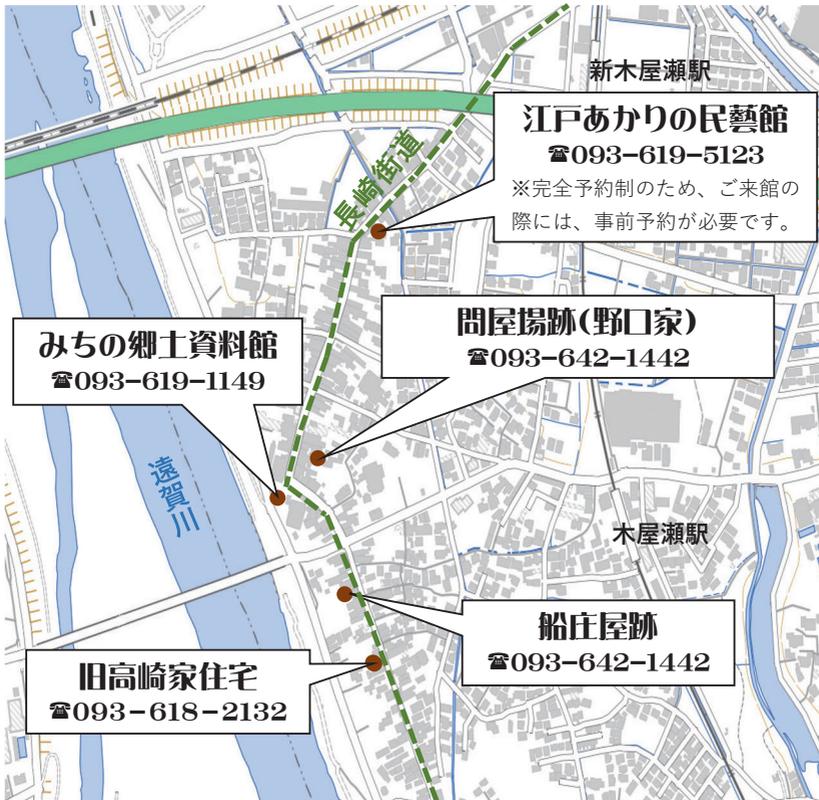
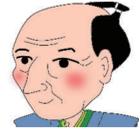
北九州都市高速道路高架下に掲げられている長崎街道の看板

長崎街道 木屋瀬エリア

筑前六宿の1つであり、脇にある遠賀川の水運で栄えた宿場町じゃ。ここにはわしだけでなく、シーボルト、ケッペル、白象が泊まったという記録もある。

この宿場は、外敵からの防衛のため工夫がなされており、「く」の字に曲がる街道や、家が道に対して斜めに建っている「矢止め」と呼ばれるのこぎり型の家並みが特徴的であるぞ。

加え、ここ木屋瀬から赤間宿までの往還を経て唐津街道へと通じておるぞ。



地図：国土地理院地図引用



◇旧高崎家住宅

江戸から明治時代まで続いた絞絹・醤油醸造で財を成した木屋瀬の商家である。

江戸末期の代表的な宿場建築として市指定文化財となっており、放送作家・伊馬春部の生家でもある。

(長崎街道木屋瀬宿記念館 HP より)

◇船庄屋跡

江戸時代、木屋瀬には年貢米の積み出し所や渡し場があった。

当時、遠賀川では「川ひらた」と呼ばれる川船がさかんに運航しており、年貢米を運ぶ権利を持つ川船を管理していたのが船庄屋である。



(長崎街道木屋瀬宿記念館 HP より)



(長崎街道木屋瀬宿記念館 HP より)

◇みちの郷土資料館

街道の旅、歴史への旅体験をテーマとして、江戸時代から明治・大正・昭和にわたって、街道と宿場、炭鉱など木屋瀬に密着した文化を体験しながら見ることができる。

◇問屋場跡(野口家)

飛脚、荷物の受付や発送、駕籠・馬、人足等の調達・斡旋を行っていたところ。

この場所は、当宿場内で一番高台の位置にあって、水害などの災害に備えており、当時、問屋前は荷解きのためか道路幅が広く、街道沿いに飛脚井戸があった。



(長崎街道木屋瀬宿記念館 HP より)



◇江戸あかりの民藝館

館長の佐藤伸一氏が収集した江戸時代の“明かり”に関する資料が数多く展示されている資料館である。

旅のおわりに…



今回は実に盛沢山で興味深い旅じゃった。
小倉城周辺も様変わりしておって、歩いていて楽しいし、木屋瀬は昔の様子が残っておって懐かしかったのう。
何度いっても飽き足らない道が多いのは、ここ北九州の財産じゃ。次は世界遺産となった八幡製鉄所の建物を見に行ってみたいのう。

< 参考資料 >

インターネットサイト

- 香取市 HP「香取を旅する」－「伊能忠敬記念館」－「伊能忠敬とは」
- 小倉経済新聞 HP「小倉『常盤橋』で伊能忠敬を顕彰－商店主ら 50 人が献花」
- 北九州風景街道 長崎街道／門司港レトロ 門司往還サイト「大門跡」
- 株式会社西日本測研社 HP「ニュース・リリース」－「伊能忠敬小倉顕彰会」
- 北九州市 HP「八幡西区」－「長崎街道について／東構口跡／西構口跡／曲里の松並木／旧高崎家住宅／船庄屋跡／問屋場跡／木屋瀬宿とは…」
- 北九州市 HP「小倉北区」－「常盤橋」
- 長崎街道シュガーロード HP「【長崎街道の起点】常盤橋」
- 小倉城 公式 HP
- 北九州市 観光情報サイト「黒崎商店街」
- 北九州市立 長崎街道木屋瀬宿記念館 HP「みちの郷土史料館／木屋瀬フィールドミュージアム／江戸あかりの民藝館（イベント情報より）」
- 木屋瀬市民センターHP「周辺の名所・旧跡」
- 江戸あかりの民藝館 HP

パンフレット

- 九州風景街道ガイドブック「人のくに、美のくに九州 Q-④ 北九州おもてなしの”ゆっくりかいどう”」
日本風景街道九州ガイドブック編纂委員会
協力：北九州風景街道（長崎街道）推進協議会 発行：九州風景街道推進会議

初版 令和 3 年 11 月発行

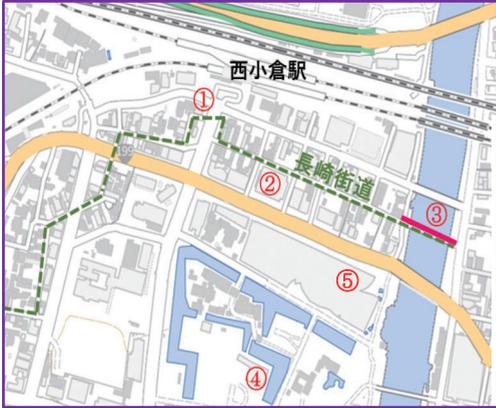
- 制作・発行：一般社団法人 九州地域づくり協会 企画部企画課
〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東 2 丁目 5 番 19 号
TEL 092-481-3781

ご注意：本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはできません。

非売品

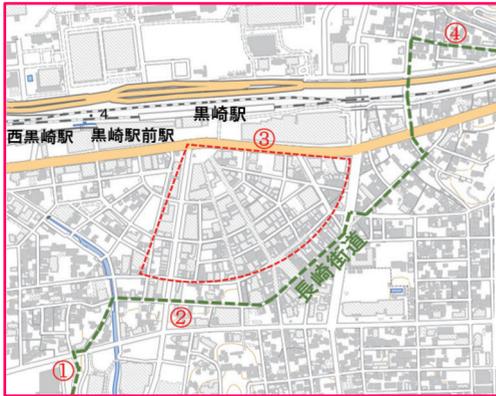
【各施設の間い合わせ先】

小倉エリア



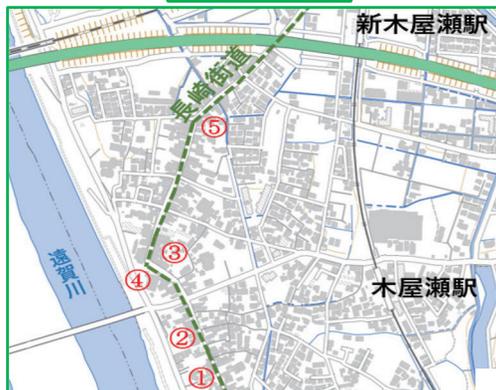
- ① 大門跡
 - ② 小倉 DC タワー
 - ③ 常盤橋
 - ④ 小倉城 : 093-561-1210
 - ⑤ ゼンリンミュージアム : 093-592-9082
- 北九州市総合観光案内所 :
093-541-4189

黒崎エリア



- ① 曲里の松並木
 - ② 西構口跡
 - ③ 黒崎商店街
 - ④ 東構口跡
- 北九州市総合観光案内所 :
093-541-4189

木屋瀬エリア



- ① 旧高崎家住宅 : 093-618-2132
 - ② 船庄屋跡
 - ③ 問屋場跡 (野口家)
 - ④ みちの郷土資料館
 - ⑤ 江戸あかりの民藝館 : 093-619-5123
- 八幡西区役所総務企画課 :
093-642-1442
- 長崎街道木屋瀬宿記念館 : 093-619-1149
- ※完全予約制のため、ご来館の際は、
事前予約が必要となります。